

神戸大学と

Across the Boundaries

No.8

わたし

神戸大学のメタモルフォーゼを伝えるメディア



阪神淡路大震災「その時、そこで、何があったのか」
語り継がれる、命の尊さ

「大学と社会の結び目」地域の情報発信能力を鍛える
NHKアナウンサー・住田功一さんに聞く
「神戸大学基金（基金事業）による課外活動支援プログラム」神戸大学ブルーグラスサークル・神戸大学洋弓部
「ききん・だより」武道場リニューアル、ほか



NHKアナウンサー
住田功一 (すみだ こういち)

神戸市出身、1960年1月生。1979年4月神戸大学経営学部入学。在学中は映画研究部に所属し、放送委員会の創設に参加。1983年3月神大卒業後、同年4月NHKにアナウンサーとして入局。熊本局、鳥取局勤務を経て、92年から東京・放送センター、03年から大阪放送局。1995年1月17日の阪神淡路大震災発生当時は全国放送「おはよう日本」のチームに所属し、休暇で神戸市灘区の実家に滞在中に被災。地震発生直後から被災地での初期報道に従事した。



学びリンク・刊(新版)税込1050円●

阪神淡路大震災「その時、そこで、何があったのか」語り継がれる、命の尊さ

NHKアナウンサーの住田功一さんが高校生向けの社会科副読本として執筆したブックレット『語り継ぎたい。命の尊さ—阪神淡路大震災ノート』が全国の教育現場で静かに読み継がれている。震災発生4年後の1999年に発刊された同書は「震災ものは売れない」という出版界の常識を打ち破って版を重ね、2009年には版元廃業という苦況に遭遇しながらも、廃刊を惜しむ読者の声に支えられて、11年4月に新しい出版社から新版となつて再刊された。あの東日本大震災とともに、阪神淡路大震災の記憶を風化させず命を大切にするための教育として語り継がれる取り組みを紹介する。

◎取材ノートから生まれた「命」を学ぶ教材

住田さんは「その時、そこで何があったのか」という気持ちを決して忘れたくないと言う。震災当時、神戸に約150万人、その周辺をあわせると300万人の人がいた。亡くなられた方、大事な人を亡くされた方、ケガされた方、仕事を失った方、住まいを失った方、300万通りのしんどさ、悲しさがあつた。それを忘れずにずっと持っていたい。その中のひとつでもふたつでも、若い人たちに知ってもらい、心に留めてもらいたい。そういう気持ちで、取材ノートからこの本を書き起こした。

高校生向けの副読本というあまり人目につかない出版形態にもかかわらず、「読者のページ」には出版直後から多くのメッセージが寄せられた。震災を体験した大学生、総合学習の教材として読んだ中高生、学校の先生。メッセージひとつひとつに住田さんは丁寧に返事

を書き、インターネット上に重ねられた読者とのメッセージは命の尊さを語り継ぐ「運動」として、著作をより深いものにしていく。

◎「震災写真調べ学習」とは

読者のページでの交流を基にして、阪神淡路大震災から15年になるのを機に、2009年頃から始まったのが「震災写真調べ学習プロジェクト」だ。同書が教育現場で副教材として読まれる中で、震災をほとんど知らない世代の子供たちに強烈なインパクトを与えたのが、普段の生活からは想像もつかない街の姿を切り取った震災の報道写真だった。倒壊した高速道路と宙つりのバス、全壊した家屋の庭木に残された貼り紙、一面の焼け跡に残ったきれいな看板など、子供たちはそれを廃墟の写真ではなく、人がそこにいた証拠として見て、写真の隅々まで観察して「ここで何があったのか」を考える。

プロジェクトの一環として、東京・神奈川

と関西を中心に巡回パネル展も開催された。本の挿絵写真は白黒で小さくてわかりにくい。それでも『これは何?』『これは何故?』という疑問が子供たちからわき起こる。しかし、小さすぎて、いくら眺めてもよくわからない。それで、カラー写真の大きなパネルに見てもらったことにした。

「カラーで大きくすると色々なことが見えてきます。あれ、足下に何かある。お供え物だ。とか、後ろに写ってるのはアーケードの焦げた残がいみたいた。とか…」

写真調べプロジェクトでは、生徒たちがチームを組んで、震災写真を元に「その時、そこで、何があったのか」を調べる。初めに探すのはその写真を撮影したカメラマンだ。新聞社や通信社に手紙や電話で問い合わせ、訪ねて行って、撮影場所や状況を聞く。カメラマンも覚えていなかったり、はつきりとは言いえない事情もあつたりして、簡単にはわからない。聞いたヒントや地図、写真に写っているものなどを参考に、場所を特定する。当時そこに住んでいた人を探し、訪ねて行って話を聞く。その成果をまとめて「そこで何があったのか」を明らかにするのが「写真調べ学習」プロジェクトだ。

◎全国に広がる「調べ学習」

2010年4月の段階で、プロジェクトには京都、兵庫、神奈川から高校が3校、静岡から中学が1校、大学生の団体が3組参加し、17枚の写真を調べた。その成果はウェブサイ



●「ラジオ深夜便」のスタジオがいつもの居場所

「私が本格的にお手伝いをしたのは震災から一年後の96年1月号で44名の犠牲者全員の追悼手記を出そうという計画からだっと思った」と住田さんは回想する。自身が震災報道に関わり、震災報道のあり方を模索しながら

ト「僕たちの阪神大震災ノートー震災写真調べ学習」プロジェクト」で紹介されている。※プロジェクトでは先生や大人が前に出て引つ張るといふことはしない。生徒たちが自分たちで考え、悩む。生徒たちがしんどくなつてSOSが出たら教師や大人がアドバイスする。例えば、遺族の人を探し出したりする」とどうして私たちのところわかつたんや？」と聞かれる。記憶を封印して話したくない人もいる。そんな時に、生徒たちは、初対面の人に自分たちの目的を丁寧に説明し、一方で、どうやって尋ね当てたかの情報源は明かさないとというルールも学んで実践する。

「中心になって動いてくれたのは、地域や教科の枠を越えて命の大切さを教える教育に取り組んでいる先生方でした」と住田さんは言う。「プロジェクトで子供たちはすごく成長し

たつて先生方がおっしゃっています。最初に取り組んだ高校は、京都の単位制の高校なんです。が、いじめや不登校で転入してきた子、コミュニケーションが苦手な子が多い。そんな子らが、この写真のこともっと知りたいという思いで、面識もない人に電話をしたり手紙を書いたりして交渉しました。知らない人とコミュニケーションを取ることそのものが生徒たちにはとても『しんどい』ことなのですが、それを乗り越えて行つたのです。もちろん、大人も悩み、苦しむプロジェクトだったようだ。

● **神戸大学ニュースネットワーク委員会との関わり**

住田さんの本が、版を重ねて「震災写真調べ学習」プロジェクトへと発展を続ける原動力として、神戸大学ニュースネットワーク委員会が果たした役割は小さくない。

神戸大学ニュースネットワーク委員会は、住田さんがOBとして関わる放送委員会を母体に、阪神淡路大震災を契機に生まれた。神戸大学では、学生39人、教職員2人、名誉教授1人、生協職員2人が亡くなった。また、海事科学部の前身である神戸商船大学では、学生5人、研究生1人が犠牲になった。親しい友人を亡くした放送委員会のメンバーもいた。突然向き合うことになった多くの死、震災の被害をどう記録しよう伝えるべきか、その議論の中から神戸大学ニュースネットワーク委員会が生まれたと言ふ。



●大阪城はいつも眼下に見える

ら、学生たちに色々アドバイスしたり、激励したり、同窓会で新聞発行資金の寄付を集めて支援した。追悼手記集はインターネットと14面建の学内紙の両方で発行され、その後の神戸大学ニュースネットワーク委員会の発行スタイルとして確立した。

「実は私の本の『読者のページ』や『調べ学習』のホームページも出版社のウェブサイトでではなく、神戸大学ニュースネットワーク委員会のサイト内にあつて、OB有志によって運営されています」と住田さんは明かす。本とウェブサイトを、住田さんと神戸大学ニュースネットワーク委員会、それぞれが有機的に結合して読者と結びつくことで、増補版、改訂新版と読者の支持を得てきたのだ。

● **地域の情報発信力を鍛えよ!**

東日本大震災では、仙台の放送局が停電で送信出力が落ちるといふ事態に陥つた。阪神淡路大震災でも、メディアが被災して仮設社屋・局舎への移転を余儀なくされた。将来、南海トラフで巨大地震が発生した時に、放送

などのマスメディアは果たして機能するのだろうか」と住田さんは指摘する。

「例えば和歌山県内で何十、何百という集落が被災し孤立した時、おそらくそのすべてにメディアが取材に入ることはできない」

そういう時に大切なのは「情報発信力は地域で持つ」ということだと住田さんは言う。「地域の情報発信力」を鍛えなければ、救援が来ないかもしれない。つまり自分たちの命を守れないということだ。

「そのためには80年代に流行し、放送委員会がやっていたミニFM的な発想も大切で、ツイッター、フェイスブックなど使えるメディアは何でも使つて、しかも裏のとれた正しい情報を発信する。それが、今の若い人たちが社会に出る前に身に付けておいてほしいスキルだと思ひます」

住田さんは、長い年月を経て再び学生時代に経験した「報道の原点」にめぐり合ったようだ。

※ <http://home.kobe-u.com/sinsai/>

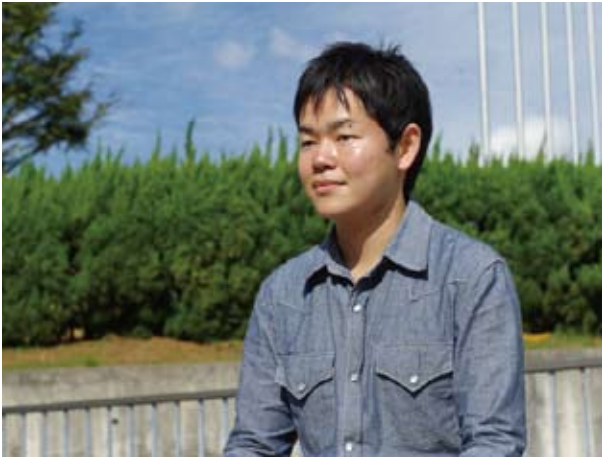
1 文化系サークル活動への支援

「楽器をやりたいなら、ブルーグラス」

と言われるほど人気のあるサークルです。

神戸大学基金基盤事業は、在学生の課外活動支援のためにも活用されています※。神戸大学文化総部に所属するブルーグラスサークルは、カントリーミュージックの一ジャンル「ブルーグラス」の演奏サークルですが、日頃の練習の成果を発表するために、毎年二回の定期演奏会を開催しています。なるべく大きな会場を借りたいところですが、そのためにはそれなりの資金が必要になります。そこで今回初めて神戸大学基金の課外活動支援制度を活用して会場費の援助を受け、大きな会場での春の定期演奏会を開催することができました。

※申し込みの方法など詳細については、「学務部学生支援課課外活動担当」までお問い合わせください。



大野真(おおの まこと)さん。国際文化学部国際文化学科、2010年入学。現在、神戸大学ブルーグラスサークルの部長としてサークル運営に携わっている。

神戸大学文化総部 ブルーグラスサークルの場合



●練習風景

もとアイルランドやスコットランドのダンスミュージックだったので、コードの数は少なくてもよかったのです。

わけですね？

A そうです。ビル・モンローの時代のスタンダードは、3コードで弾けるものなども多く、初心者にはとつきやすい音楽です。もと

●約80人の部員が約15のバンドで活動

Q サークルの部員は何人くらいいますか？

A だいたい4学年で80人くらいのメンバーが15くらいのバンドを組んでいます。

Q ものすごい数ですね。毎年そのくらいの部員がいるのですか？

A 以前は40人くらいしかいなかったのですが、2010年ごろから増え始め、その後はだいたい80人くらいの部員数です。

Q 倍増ですね。大野さんはなぜこのサークルに入ろうと思ったのですか？

A 先輩の演奏を聞いてカッコイイなと思ったからです。それと、楽器を弾けるようになりたいと思ったこと、さらに好きな時間に自由に練習できるこ

ともありますね。

Q 楽器はすぐに弾けるようになりますか？

A 春に始めてその年の冬の定期演奏会で練習の成果を発表するという感じですね。それより、曲を覚えるのが大変です。私は一年くらい経つてようやく曲の違いがわかるようになりました。それまではどの曲も同じように聞こえてたんですね。コードの数も少ないので。

●サークル活動活性化に一役

Q 基金の課外活動支援制度は、神戸大学の知名度向上に役立つと思えますか？

A 思います。課外活動を活性化させることで、できるだけ多くの人に神戸大学の存在と活動を知ってもらおう機会を増やすことができるからです。

Q 今後も支援制度を活用しようと思えますか？

A 思います。ブルーグラスは年間を通じて各地でのフェスに参加していますし、1年生の練習用楽器を買い資金も必要だからです。



●野外フェスにて演奏するブルーグラスのバンド

2

スポーツ系サークル活動への支援

アーチェリーの醍醐味は、

矢が的に吸い込まれていくときの開放感。

神戸大学体育会
洋弓部の場合

神戸大学体育会洋弓部は現在、男女とも関西学生アーチェリー連盟の1部リーグで活躍しています。1962年に創部された洋弓部は、今年51周年を迎え、800人を超えるOB・OGの支援と現役部員の活動によって今日もまた新しい歴史を刻んでいます。



●練習風景

●男女とも関西学連1部リーグで活躍

Q 洋弓（アーチェリー）は、今年のロンドンオリンピックで話題になりましたね。

A はい、女子団体が銅メダルを取ったことや、男子個人の古川選手が銀メダルを取ったことで、一躍話題になりました。ちょうど2006年のトリノオリンピックで、カーリング競技の女子チーム（チーム青森）が7位に入賞し、知名度が一気に上がったときに似ています。

Q アーチェリーの認知度も上がるといいですね。部員は現在何名ですか？

A 男子が35名、女子が22名で合計57名です。4回生はすでに引退していますので、3学年の合計です。

Q 多いですね。成績はどのくらいですか？

A 関西学生アーチェリー連盟に加盟して、現在男女とも1部リーグで戦っています。1部リーグに昇格してから男子は4年目、女子は6年目です。リーグの中ではまだトップというわけにはいきませんが、中位をキープしています。

●半世紀の歴史をもつ洋弓部

Q アーチェリーの面白さは何ですか？

A 矢が的の中心に吸い込まれていくときの開放感ですかね。的の中心を射るという単純明快なゲームですが、そのために必要な体力・筋力を鍛えることはもちろん、練習のときと同じ集中力と平常心で試合に臨める精神力を鍛えることが大事です。

Q 部員数が多いのは、オリンピックの影響がありますか？

A オリンピックは夏だったのですが、今年部員数の増加に直接の影響は受けていないと思います。しかし、来年の新生には期待できると思います。

Q 神戸大学洋弓部にはすでに半世紀の歴史があると？

A はい、今年2012年に創部51周年を迎えました。たいへん歴史のある部で、800名を超えるOB・OGの方々に多くの面で支えてもらっています。

Q 部活動の費用はどのくらいかかるのですか？

A 一番大きいのは、弓セットの購入費用ですね。だいたい一式20〜25万円かかりますが、これは個人負担になります。

Q 入部してすぐ購入するのっていいですか？

A 春に入部して夏休みまでは部所有の練習セットで練習しますが、秋の新人戦までには目前のセットを用意しておく必要があります。

●部活動を通じて神戸大学の歴史を刻む

Q 神戸大学基金からの支援は今回いくら受けたのですか？

A リーグ戦への支援として5万円、三商大戦への支援として3万円、合計8万円です。

Q どういう用途に使ったのですか？

A 消耗品の購入が多いですね。例えば的。これは射的するたびに新しいものが必要になります。それとスコープ。これは射的後の的を見る望遠鏡ですが、一定の数を部で用意しておく必要があります。

Q 神戸大学基金からの支援は役に立っていますか？

A もちろんです。基金からの支援を受けるということは、部活動を通じて神戸大学の歴史を刻んでいくことと同じだと思っています。



写真右から、主務・岡本翔（おかもと・つばさ）さん（理学部物理学科3回生）、主将・金田毅（かねだ・かすき）さん（文学部心理学科3回生）、女子リーダー・南ありこ（みなみ・ありこ）さん（経営学部経営学系3回生）。



●練習風景

きぎん・だより

〔課外活動施設の整備〕

国登録有形文化財 「神戸大学武道場」の 修復工事完了

神戸大学武道場は、旧神戸高等商業学校の道場を1935（昭和10）年に移築改装した建物です。当時の名称は「艱貞堂^{かんていどう}」。関西では数少ない近代和風建築の武道場として今年、国の登録有形文化財に登録されました。

この歴史ある建物は、柔道部、空手道部、剣道部の3武道部が使用していますが、老朽化が進んだため、内外装のリニューアルを決定。同時に、3武道部関係からの寄附金を



●「神戸大学武道場」全景



●新しくなった看板

1200万円をはじめ、趣旨に賛同いただいた六甲台後援会からの寄附金、神戸大学基金からの支援金を合わせて、総額2200万円が集まりました。これによって、予算措置でさなかつた玄関や各出入口等の建具、女子更衣室等の設備拡充を実施。練習環境が一段と整いました。

現在展開中の基金事業の他にも、今回の例のように、神戸大学基金による支援の輪を拡大したいと考えていますので、皆様からのご理解とご支援をお願い申し上げます。

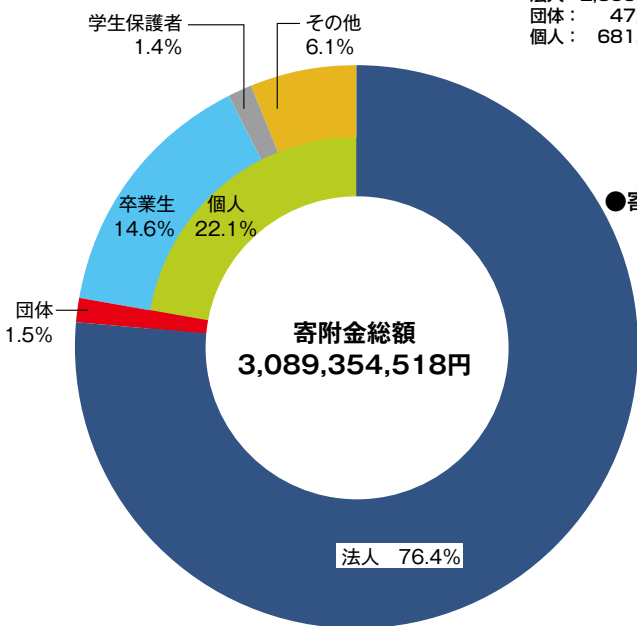
「基金の募金状況と展開内容」

国際化への対応をはじめ、 多彩な活動を支援

神戸大学基金（基金事業）の展開内容は、以下のとおりです。

① 明確な目標を持った優秀な学生の海外留学・研修への派遣支援として

●図で見る神戸大学基金募金状況 (2012(H24)9.30現在)

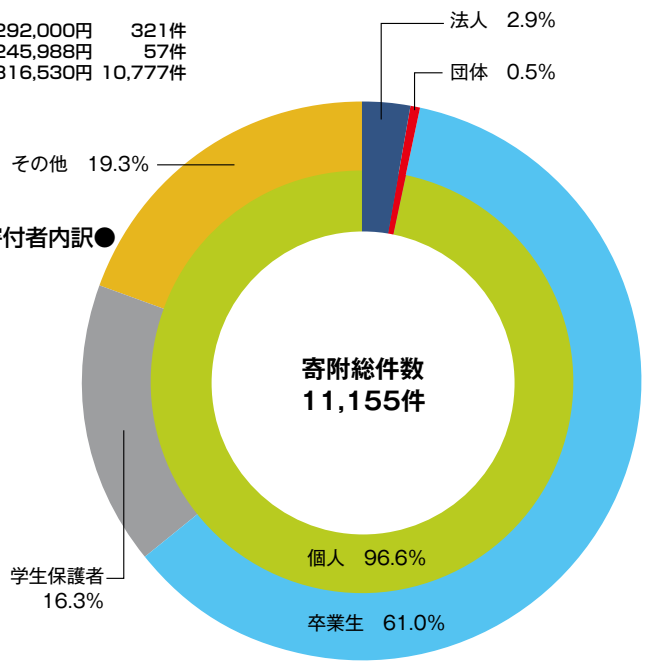


■法人	2,360,292,000円
■団体	47,245,988円
■個人	681,816,530円
(個人内訳)	
■卒業生	452,067,660円
■学生保護者	43,161,000円
■その他(学内教職員/名誉教授/卒業生保護者等)	186,587,870円

寄附金総額：3,089,354,518円
寄附総件数：11,155件

〔内訳〕
法人：2,360,292,000円 321件
団体：47,245,988円 57件
個人：681,816,530円 10,777件

●寄付者内訳●



■法人	321件
■団体	57件
■個人	10,777件
(個人内訳)	
■卒業生	6,808件
■学生保護者	1,815件
■その他(学内教職員/名誉教授/卒業生保護者等)	2,154件

海外派遣・語学研修・留学・海外インターンシップ・ボランティア・国際学会等派遣事業
 ② 海外に向けた発信への支援として
 研究者向け英語個人指導・学部生向け英語プレゼンテーション指導等

③ 海外からの優秀な留学生・研究者の受入として

ダブルディグリープログラムに参加する協定大学から来学してくる海外留学生への支援
 ④ 神戸大学基金奨学金制度の充実

神戸大学基金緊急奨学金（災害や不慮の出来事による修学・生活困窮学生への支援）
 ・神戸大学基金奨学金（優秀かつ生活が困難している新1年次生への支援）

⑤ 課外活動（ボランティア活動を含む）支援
 ・ボランティアバス

・学生団体又は学生の課外活動に対しての支援

⑥ 東京地区におけるプレゼンス向上活動支援
 ・神戸大学東京オフィスの整備等

また、本学は今年、神戸大学創立110周年を迎え、「世紀を超えて神戸大学」(110 years and beyond) をキャッチフレーズに、さらなる発展を目指し、現在展開中の基盤事業の他に、新しい分野にも支援の輪を拡大したいと考えています。
 皆さまからの、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

ご寄附いただく方法

【個人のみなさま】

平成22年分より、所得税法上の特別優遇措置として、適用下限額が現行の5千円から2千円に引き下げられ、より一層ご寄附をしていただくやすい環境になりました。

また、平成23年1月1日以降のご寄附より、本学に寄附した翌年1月1日に神戸市にお住まいの方は、神戸市個人市民税の優遇措置を受けることが可能となりました。

お名前・住所・電話番号を下記の基金推進室までお知らせください。折り返し、払込取扱票一式をお送りしますので、銀行または郵便局からお振込みください。

● クレジットカードによるご寄附

平成23年12月からクレジットカードによるご寄附が可能となりました。神戸大学のWebサイトから寄附受付画面にアクセスしていつでもご寄附いただけます。ご利用いただけるカードは、「VISA」「Master Card」です。詳しくは左記サイトへアクセスしてください。



http://www.kobe-u.ac.jp/kobekikn/general.htm

【法人のみなさま】

所定の寄附申込書に必要事項をご記入の上、下記基金推進室まで郵送ください。折り返し、振込依頼書をお送りします。寄附申込書は、基金推進室に法人名・住所・電話番号をお知らせいただければ送付します。あるいは左記のサイトから書式をダウンロードすることもできます。



http://www.kobe-u.ac.jp/kobekikn/corporation.htm

【神戸大学基金推進室】

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
 TEL 078-8003-5414
 FAX 078-8003-5024



E-Mail: kikn@office.kobe-u.ac.jp

お知らせ

寄附者の皆さま、紙面に挟んである「神戸大学とわたし」読者アンケートに、貴重なご意見、ご感想など、一言メッセージをお寄せください。



E-Mail: kikn@office.kobe-u.ac.jp

読者からの一言メッセージ

「私はこんな理由で寄附しました」

- 神戸大学の発展をお祈りします。
- 母校が立派な学校になって欲しいから寄附しました。
- 何か少しでも母校を応援したい。つながっていたい。
- 母校愛です。よき先輩が育つよう希望します。私もよき友人に恵まれ、今も交流を持っています。
- 海外からの留学生を含め後輩の教育研究活動の一助になればと寄附しました。
- 母校教員（研究員）が全日本的・世界的に貢献できるよう、その一助となることを期待。
- これまでの記事にあった地震防災技術のこなど、神戸大のレベルの高さを象徴するものに感動しています。
- 山と海に面した街神戸。ここから世界に羽ばたく学生さんが続きますように！

発行のこぼれ

神戸大学は、明治35年（1902年）の創立以来、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を理念とし、社会に貢献する人間性豊かな指導的人材の育成と、普遍的価値を有する「知」の創造拠点としての世界的教育・研究機関たることを目指してきました。

● 今、20世紀都市文明からの転換が激しく迫られる中で、大学にはその創造力を発揮して新しい21世紀文明構築のさきがけとなることと求められています。「神戸大学ビジョン2015」は、その第一歩として、「世界トップクラスの教育・研究」「卓越した社会貢献・大学経営」の実現を目指しています。

● 「神戸大学基金」は、ビジョンの実現を加速するためのターボ装置です。ターボの力をより強力なものとするためには、神戸大学が社会により深く根を張り、そこからの支持と支援を拡大することが不可欠となっています。

● 本誌「神戸大学とわたし」Across the Boundariesは、神戸大学と社会の接点に取材し、ビジョンを先取りする取り組みを可視化することで、社会貢献の促進とビジョンの早期実現に資することを目的として発行されました。読者の皆様の忌憚のないご意見をお待ちしています。

● 2010年1月1日
 ※表紙題字下の「メタモルフオーゼ」は、生物学でいう「変態・変身」の意。本誌は神戸大学が21世紀に飛躍する様を追いかけています。

神戸大学とわたし

Across the Boundaries
 通巻第8号 No.8
 2012年11月30日発行

発行人 国立大学法人神戸大学
 編集人 企画部社会連携課
 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
 TEL: 078-803-5414
 FAX: 078-803-5024



E-Mail: kikn@office.kobe-u.ac.jp

神戸大学 東京オフィスにようこそ。

卒業生のネットワーク作りの場所として……、全国で活躍されている卒業生とのネットワークの拠点として……
母校へのコンタクト及び利用されたい方、全国で活躍されている卒業生の東京での憩いの場所として……
神戸大学についてお知りになりたい方、その他、お気軽にご訪問・ご利用ください。



2011年12月1日より、キャリアアドバイザーによる就職相談ができます。

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1 (帝国劇場ビル地下1階)
Tel: 03-6269-9130 Fax: 03-3214-4227
E-mail: tokyo-office@org.kobe-u.ac.jp
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/tokyo-office/>
開所時間：月～金 9:00 - 19:00 (土日祝日を除く)

- JR山手線有楽町駅より徒歩3分
- 都営三田線日比谷駅より徒歩1分
- 東京メトロ有楽町線有楽町駅より徒歩1分
- 東京メトロ千代田線日比谷駅より徒歩3分

※東京オフィスの運営には、皆様のご支援による「神戸大学基金」の一部が活用されています。



since 1902
For 110 years and beyond